

令和6年度 相模湖地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和6年11月24日（日）午後2時から午後3時35分まで
- 2 場 所 相模湖総合事務所大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、大川副市長、椎橋緑区長、渡邊危機管理局長、河崎教育局長
榎本市民局長、大田総合政策・地方創生担当部長、関緑区副区長
- 4 出席委員等 19人（うち中学生5人）
- 5 傍聴者 7人
- 6 懇談会の要旨

テーマ	中学生が考える相模湖地区の未来像について
概要	<p>相模湖地区は、これからの地区を担う若者（中学生）を対象に、本年9月に当地区における課題や将来像についてアンケートを実施した。</p> <p>アンケート結果に基づき、若者から挙げられた意見について、適切に理解し効果的に取り組むことができるよう、【中学生の部】を設けて、当地区の未来像について市との意見交換を行う。</p> <p>また、同様のアンケート結果を踏まえた、まちづくり会議委員との意見交換を合わせて行う。</p> <p>【中学生の部】 アンケート結果上位の項目から、まちづくりや防災、自然など幅広いテーマで懇談を行う。</p> <p>【大人の部】 アンケート結果上位の中から防災・防犯に絞って懇談を行う。</p> <p>（防災） 令和元年東日本台風で大きな被害が出ており、今年の相模湖地区総合防災訓練や8月末の大雨でも、いくつかの課題があった。防災無線について、避難所として使用している学校の体育館について等の課題を認識している。</p> <p>（防犯） 南区内病院からの逃亡犯は逮捕されてから初めて知ったという声が多かった。こうした情報が的確かつすみやかに伝わるような情報伝達体制の構築が必要であるとの声が聞こえている。</p>

中学生の部	
地区の取組 状況等	<p>昨年10月に「相模湖地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会」が組織され、小・中学校の児童・生徒にとって望ましい学習環境の実現に向けた検討、協議が進められている。</p> <p>当地区の将来ビジョンを描くには、こども・若者世代の意見を聴くことが重要であることから、本年9月に中学生を対象に当地区が抱える課題や将来像についてアンケートを実施した。</p>

懇談内容	
中学生の	災害について、地域ごと（単位自治会レベル）で設定された集会所などの一時

<p>発言</p>	<p>避難場所から学校や公民館のような広域避難所までの距離が遠い、道志、横橋、赤馬などのような地域についてどう考えているか。 (内郷中学校1年生)</p>
<p>市の発言</p>	<p>本市において、災害時に孤立する恐れのある地区55か所を「孤立対策推進地区」とし、相模湖地区においても、道志、横橋、赤馬中通り、赤馬東部自治会の地域が対象となっている。令和元年度東日本台風においては、赤馬地域が孤立したことや県の水道橋が壊れたことで市民の皆様にご迷惑をおかけした。相模湖地区は風水害被害が起こる可能性が十分にある地域であり、南海トラフ地震の切迫性も高まっているため、日頃から孤立対策訓練を繰り返し行うことは大事だと思っている。</p> <p>自助・共助・公助という言葉があり、市は公助の部分を担っているが、やはり地域において大切なのは、自助と共助であり、各家庭で防災備蓄を用意しておくことや、自治会を通して普段から顔の見える関係性を作っていただくとともに、公助の観点からは避難所、在宅避難についての情報を徹底して日頃から発信していきたいと思っている。相模ダムの工事も始まっているので、災害時に決壊することがないように、県と連携をとって、災害時においても誰一人取り残さない姿勢をしっかりとっていきたい。 (本村市長)</p>
<p>中学生の発言</p>	<p>避難所について、北相中学校が避難所になっていないのは、避難所にできないということなのか。 (北相中学校2年生)</p>
<p>市の発言</p>	<p>北相中学校の校舎や体育館の周囲の多くは、山崩れの可能性があるレッドゾーン（土砂災害警戒特別警戒区域）に指定されているため、風水害時避難場所に指定していない。</p> <p>北相中学校は、広域避難場所として指定している他、避難所として指定されている千木良小学校、内郷小学校、桂北小学校の3施設を中心付近にあるため、救援物資の受入れ拠点として位置付けるとともに、飲料水兼用貯水槽を設置している。各避難所の収容可能人数が700人程度しか入らないので、収容可能人数を超える人が避難してきた場合の対応は考えていかなければならないが、先ほど言ったように近くに住む友人や祖父母の家に避難するなど在宅避難についても検討していただきたい。相模湖地区に住む市民の皆様のを3つの避難所で守ることが十分かというところはまだ足りないと思っているが、だからこそ皆様には日頃から近所づきあいをして顔の見える関係を作ってもらい、いざという時に近所同士で助け合えると良いと考える。 (本村市長)</p>
<p>中学生の発言</p>	<p>学校の設備について、暑さで部活が中止になったり、体調不良者が出たりしているが、市内の学校体育館に冷房設置の予定はあるか。 (北相中学校3年生)</p>
<p>市の発言</p>	<p>コロナ禍で、国からの交付金を活用し令和3年度に各区2校ずつ空調設備を設置した。さらに優先的に市内の地区自治会連合会単位22地区にある学校1校ずつに空調設備を設置する計画で、今年度は6校設置しており、来年度は10校設置する予定である。相模湖地区では、来年度千木良小学校に設置する予定である。現在は避難所に指定されている学校のうち、22地区に1校ずつ優先的に設置しているが、市としては全校に設置したいと思っている。空調設備設置の他、トイレの洋式化が進んでいない、ドライエリアの整備といった課題も多くあるが、熱中症のリスクを鑑みて体育館への空調設備設置が大事であるという方向性</p>

	<p>で、庁内で議論を進めている。計画的に全校に空調設備設置ができるようにしっかり予算を確保し、なるべく早く対応していきたいと思っている。(本村市長)</p>
<p>中学生の 発言</p>	<p>緊急時には学校や幼稚園などのガラスを割ってAEDを使っても良い、という話を耳にしたことがあるが、それでは安全面での問題がある。割れたガラスで怪我をする可能性もあり、何より冷静に対応できる状況ではない。</p> <p>AEDは、大人だけでなく子どもの命を救うためにも、地域全体でAEDの設置場所や使いやすさについて、改めて考え直す必要があると思う。</p> <p>(内郷中学校1年生)</p>
<p>市の発言</p>	<p>非常に大切な意見をいただいた。持ち帰って教育局に共有したいと思う。確かに、緊急時の場面であっても、ガラスを割って入らなければAEDが取れないとなると躊躇してしまう。また、使用方法については日頃から救助活動の訓練を積み重ねていくべきだと思う。特に心臓マッサージなど異性の体に触れるようなことは避けたいと思う人は多いと思うので、そんな時にAEDがすぐに使えるように、日頃からの訓練が大切だと思っている。私も訓練に参加するが、何度も積み重ねていかないと駄目だと思う部分が多い。実際に何かあった時に衝撃を受けることが多いので、今からしっかりと練習しておくことが重要だと思う。心臓マッサージもそうだが、AEDの設置場所についてもしっかりと検討すべきと思う。これについては関係部署に話をして検討を進めていきたいと思う。(本村市長)</p>
<p>中学生の 発言</p>	<p>若者離れをなくすために、多くの人が相模湖地区に集まる湖上祭を活かして、近々あるイベントをポスターやチラシ、アナウンス等で情報を広め、来ていただいた多くの人に知ってもらえるようにすること、イベントに来なくても情報を広められるように手軽に見られる相模原市のサイトやSNSを活用し、その一部にイベント情報を載せて相模湖地区をバズらせて湖上祭以外のイベントにも足を運んでくれるような働きかけをしていくのはいかがか。</p> <p>また、多くのイベントに来ていただき、相模湖の良さを知ってもらった上で移住を選択する人が増えていけば、若者離れや移住者減少の対策となるのではないか。</p> <p>今、相模湖地区でもアピールの取組をしていると思うのだが、現状を知らないなので、実行委員会や会議に若者が参加できるようにしたら、もっと新しい意見やこれからの時代や需要に合ったものが生まれてくるのではないか。</p> <p>(内郷中学校3年生)</p>
<p>市の発言</p>	<p>相模湖という地名は市外の人に一番知られている地名だと思っている。相模湖や石老山、相模湖MORIMORIなど様々な観光資源があるので、この資源を活かしていきたいと思っている。8月1日に開催された相模湖湖上祭に行った際に、来場者にどこから来たのか聞くと中央本線を使って東京都から来ている人が多かった。東京都から電車で行くことができる便利な場所になっているので、ぜひバズらせていきたい。</p> <p>相模湖地区内では洋服を買いに行くような場所がないことや移動手段が少ないことが課題となっており、特に移動手段については、昨年度のまちづくりを考える懇談会でも、乗り合いタクシーの実証実験やライドシェアを導入することの提案があった。ライドシェアについては、導入できないかと庁内で議論をしているところである。地域の皆様も移動しやすいような環境づくりを検討していきたい</p>

	<p>と思う。地域の皆様が相模湖地区に住んでいて不便だなと感じることは、移住者にとってネックになるし、反対に地域の皆様が誇りに思っている相模湖の豊かな自然を求めてやってくる人も多くいると思う。相模湖地区の魅力を伝えるには、例えば、バズるようなポスターを作ることやSNSで美味しいお店を発信するなどして、地域の皆様と一緒に取組むのが良いと思う。まちづくり会議などの委員に中学生や高校生を選ぶのもひとつのアイデアであると思う。私も庁内の若い職員の意見を聞くようにしており、将来を担う人の意見を取り入れ、対話をしていきたいと思っている。最近では自治体でもSNSを駆使して情報発信をしているところを見るので、誰一人取り残さないようにするためにもプッシュ型の情報発信や、紙媒体だけではなくスマートフォンにも発信できるようにしたい。「チャレンジする市政」を発信したいと思っているので、ぜひ相模湖地区からチャレンジし、皆様と一緒にバズる方法を考えていきたい。(本村市長)</p>
中学生の 発言	<p>小原地区が中山間地域モデル地区になっていると聞いたが、市としては、何を するのか教えてほしい。(北相中学校2年生)</p>
市の発言	<p>小原地区にある小原の郷の改修を予定している。小原の郷では、これまで物を 売ったりお茶を飲んだりすることができないことから、現在どのような施設にし ていくかデザインを構想中である。可能であれば再来年度ごろに工事を開始し、 その1年後くらいには交流の場としての利用を開始したいと考えている。今でも 車や自転車であられた多くの方々にはトイレ休憩などで立ち寄っていただいでい るが、それだけでなく、より多くの方々に来てもらえるように準備を進めてい る。今も取組をしていただいでいるが、地域と協力して様々な参加型プログラム を企画し、参加者同士が交流をしながら地域の物産も買ってもらえるような、そ んな交流の場ができると良いと考えている。(椎橋緑区長)</p> <p>青根地区と小原地区をモデルに、様々なチャレンジをしていきたいと考えてい る。小原地区の竹は観光事業の一助になるのではないかと考えている。また、小 原宿本陣は、神奈川県で唯一現存している本陣であるので、これを活用してい きたいと思っている。地元の議員とも話をしているが、相模湖東ICが下りの出口 のみのため、交通の利便性を向上させ、より多くの方々に来ていただけるよう に、上りや入口の設置についてNEXCO中日本に働きかけをしている。 (本村市長)</p>
中学生の 発言	<p>国道20号は休日になると渋滞してしまうので、中山間地域モデル地区の取組 の際に交通渋滞対策も行っていたきたい。(北相中学校2年生)</p>
市の発言	<p>国道129号や134号は国から移管して市が担当しているが、国道16号や 国道20号は国が管理している道路となっている。例えば歩道のガードレールが 狭く車いす使用者が通るには危険なことなど、安全面の課題等もあるため、引き 続き交通渋滞対策含め、所管している相武国道事務所には改善をお願いしてい きたいと思う。(本村市長)</p>
中学生の 発言	<p>今の相模湖地区は山が多いところと水がきれい、自然が多いなどのいいところ が挙がっているので、そこを活かし、家族で参加できる山と川をめぐるツアーを 実施するのはいかがか。山でのモノづくり体験で使用する木材は景観を良くする ために伐採した木の廃材を使えば一石二鳥だと考える。また、川では、釣りや石</p>

	<p>飛ばし等をアピールすれば若者離れや移住者を増やすきっかけとなるのではないかと。 (北相中学校3年生)</p>
市の発言	<p>相模湖やダム、小原宿本陣などの歴史的な文化財などの魅力をPRしつつ、民間事業者と連携したり、地域の皆様の意見を聞いたり、皆様からも意見を寄せていただいたりして、今後よりよい相模湖地区にしていくための取組ができると良いと思っている。 (大川副市長)</p> <p>相模湖地区は駅からすぐ近くに自然が豊かに広がっているという特色があり、それを活かした夏のツアーを民間事業者が実施しており、すぐ予約が満杯になってしまうほど人気で、親子で参加する人が多いと聞いている。また、石老山に観光トイレがないことは登山客にとって重大な課題であると認識している。東京都や山梨県から高速道路を使って気軽に行けるような距離に相模湖地区があるため、より多くの方々に観光に来ていただけるような環境づくりが重要だと思っている。</p> <p>相模原の観光事業をより促進するために、民間事業者に対して市の魅力をPRし様々な提案を行ってきたので、今後も引き続きチャレンジしていきたいと思っている。ぜひ良い提案やスポットがあれば、相模原市の営業マンとしてPRしていきたいと思うので教えていただきたい。 (本村市長)</p>
中学生の発言	<p>現在の相模湖地区の自然問題として、熊や大型イノシシの出没、ヤマビルが各地区へ広がりを見せていることなど多くの問題が発生している。この問題について、鳥獣の住処となっているような密集した木々の伐採や整備することで景観の改善や安心した暮らしの保証、さらには相模湖の自然を活かしたアピールにつながると思う。 (内郷中学校3年生)</p>
市の発言	<p>市民の皆様に対しては刈払いをお願いしているが、自分たちでやるには骨が折れるような作業であることは承知している。自動的に刈払いをするロボットがあると聞いたので、今後導入できるように検討を進めていきたい。地域の皆様にただお願いするだけではなく、市として取り組むべき部分をしっかりとやっていきたい。 (椎橋緑区長)</p> <p>昨年には千木良で熊を確保したが、罠が外れそうだったので警察も呼んで対応したと承知している。串川でもイノシシやウリボーの出没があったと承知している。7年ほど前には、千木良においてサルによる畑被害に困っているとのことで、地域の皆様から相談を受けることがあり、公民館での集会や勉強会に参加したことがある。そこで獣害対策の重要性を知ったため、私が市長になって初めて補正予算をつけたのは、鳥獣を捕獲するICTの檻であり、導入した結果サルによる被害が減った。動物との共存ももちろん大事だが、人間に対する被害を抑えることもできるように引き続きしっかりと取り組んでまいりたい。 (本村市長)</p>

大人の部	
地区の取組状況等	<p>【相模湖地区総合防災訓練、避難所運営訓練、孤立対策推進地区通信訓練】 今後想定される災害に備え相模湖地区全体で避難訓練等を行っている。</p> <p>【安全・安心パトロール】</p>

	<p>「春・秋全国交通安全運動」期間及び「市民交通安全の日（毎月２０日）」に相模湖地区内を通学時間中パトロールしている。</p> <p>【緑区安全・安心まちづくり推進協議会啓発活動】</p> <p>秋の全国交通安全運動」及び「年末年始特別警戒」期間中に地区内のスーパー店頭やＪＲ相模湖駅前にて、防犯・交通安全の啓発活動を実施している。</p> <p>また、１０月上旬に行われる相模湖ふれあい広場にて子供向けに啓発活動を行っている。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>はじめに、「防災無線」について説明させていただく。防災行政用同報無線、いわゆるひばり放送は、市町村合併に伴い、平成１９年度から平成２３年度にかけて、市全体の整備を行っており、相模湖地区については平成２０年度に整備を行った。相模湖地区の屋外拡声子局、いわゆる放送塔は、２８か所設置している。戸別受信機については、令和２年度と令和３年度に追加配備したものと合わせ、８７台整備した。ひばり放送は、整備から１６年が経過し、放送塔の無線機やアンプなどの故障が増え始めているため、更新について検討を行っている。</p> <p>次に、避難所施設の修繕について説明させていただく。今年８月の台風１０号では、風水害時避難場所に指定している千木良小学校屋内運動場のステージ奥からの大量の雨漏りにより、校舎に移っていただくなど、避難された方々や地域の皆様には、大変ご迷惑やご心配をおかけした。対応策の検討や業者の手配に時間を要したが、１１月１日に着手し、雨どいの堆積物を除去した上で、老朽化により生じたクラックの補修を実施しているところである。ただ、近年は想定外の豪雨も珍しくなく、今後、同一箇所と同じような雨漏れが生じた場合には、排水の構造を見直すなどの抜本的な対策も視野に入れる必要があるため、引き続き状況を注視し、必要な措置を講じてまいる。屋内運動場を含む学校施設の修繕計画については、令和２年３月に学校施設長寿命化計画を策定し、２０年サイクルを基本として、計画的に改修を行う予防保全への転換を進めているが、それ以前に不具合が生じた場合には速やかに状況を確認した上で、修繕等必要な措置を講じているところである。</p> <p>最後に「防犯等に係る情報伝達」について、ご説明させていただく。現在、事件等による防犯等の情報については、警察と連携し、安全・安心メール等にて情報伝達を行っている。また、市民の皆様に対し注意喚起を促す場合も同様に、警察と連携し、安全・安心メール等にて情報伝達を行っているが、急を要する内容等の場合は、青パトによる直接的な注意喚起や近隣の学校等への情報提供を行っている。今回の発端となった南区の北里大学病院で起きた事件については、事件発生から２時間もしない間に犯人の身柄が確保されたということもあり、情報が伝わらなかったとも考える。事件等の情報をどこまで出せるかについては、捜査等への影響が大きいため、警察の判断に委ねざるを得ないが、市民に危険が及ぶ恐れがあるものについては、情報開示をしてもらえるように警察に働きかけたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">（大川副市長）</p>

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>防災無線について、音が非常に聞きづらい、特に緊急車両が走っている時や大雨の日は、場所によっては放送があっても何を言っているのか聞き取れない。 6</p>

	<p>5歳以上のスマートフォンを持っていない世帯に対して、戸別受信機を87機配布したと聞いているが、そうしたことも踏まえて防災無線も同様に対応できないか。市民がより聞こえやすい環境を整備するため、戸別に受信機を配布できないか、検討していただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>防災無線が聞こえにくいとご迷惑をおかけし申し訳なく思っている。整備から16年が経過しており、設備自体の劣化が進んでいることと相模湖地区の地形的な要因もあって、音が届きにくい状況がある。こうしてご迷惑をおかけしている点について、ご意見を受け止めている。</p> <p>こうした課題を受けて、現在設備の更新を進める方向で検討をしている。現在使用しているのはラップ型のスピーカーだが、聞こえにくい箇所では、より精度の高いもの（スピーカー）に更新してみてもどうかと考えている。また、ご意見いただいた防災無線の戸別受信機についても検討に含めていきたいと考えている。</p> <p>ひばり放送については、防災無線の性質上、放送で伝えることのできる情報量に限りがあるので、情報量をセーブして放送することもある。市としては、ひばり放送の他にも、メールやtvkの自治体データ放送、SNSなど様々な手段を通じて情報発信を行っている。放送で伝えられる情報の量に限りがあることを考慮し、メールやSNSを併用して情報を伝える仕組みを整備していることで、市として改善を進めていくとともに、放送が聞き取りづらいと思ったら、ぜひ皆様にもメールなど他の手段を活用していただきたいと思う。（渡邊危機管理局長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>児童クラブで勤務していて怖いと感じたのが、南区から逃走した切りつけ事件の犯人が最終的に相模湖地区で捕まったということである。かつてやまゆり園事件もあったため、犯人が学校や介護施設に侵入していたらどうなっていたのか、登校時に児童が巻き込まれたらどうなっていたのか、とても不安になった。</p> <p>もうひとつは、児童クラブ開設中に起こった出来事で、南海トラフ注意報の情報があった際に校長先生から「児童クラブを開設していて大丈夫か」と確認の連絡があった。所管課であるこども・若者支援課へ電話して確認をしたところ、「マニュアル通りです。」と言われ、距離感や温度差を感じた。以前、地域で熊が出没した際には、相模湖まちづくりセンターの所長から「校庭で遊んでいて大丈夫ですか」と電話をいただいたことがあり、その時は安心感を覚えた。</p> <p>このような経験から、的確で速やかな情報伝達の構築とともに市役所と区役所、まちづくりセンターの間での連絡体制の構築が必要ではないかと考える。</p>
<p>市の発言</p>	<p>北里大学病院での事件は、事件発生から確保までわずかであったため、安全・安心メールによる情報伝達ができなかったことが正直なところである。安全・安心メールの発信の仕組みについてご説明をさせていただくと、市内4つの警察署からの情報を基に、特定の区のみで発信するような場合は各区役所の地域振興課が対応し、全市的にお知らせをする必要がある場合は市民局で対応しているが、いずれにしても所轄の警察署からの情報提供がなければ、市としても情報を知ることができないので警察にはお願いをしているが、所轄の警察署ごとでどこまで情報を出してくれるかは温度差があるため、地域住民の皆様が安心できるようにするために、引き続き可能な限り情報を出していただけるように、定期的にお願いをしていく。（榎本市民局長）</p>

	<p>今回職員の対応についてご指摘いただいたところは、こども・若者未来局に共有し、皆様に適切に正確な情報が伝わりやすいように、改善すべきところは速やかに改善するようにしていきたい。 (河崎教育局長)</p>
--	--

<p>地区の発言 まとめ</p>	<p>「中学生が考える相模湖地区の未来像」についての話題では、中学生からたくさん意見をいただいた。今回のまちづくりを考える懇談会では、これからのまちづくりを考える中で、今後地域で活動し、これからのまちづくりを担うことが期待される中学生の意見を取り入れた。中学生の目線で考えた地域の課題を市に投げかけることができたのは非常に有意義であったと思う。</p> <p>まちづくりを考える懇談会の開催にあたっては中学生や市の皆様にご協力いただき感謝している。</p>
-----------------------	--

<p>市長の 感想等</p>	<p>中学生の部において、中学生から率直な意見が聞けて大変嬉しく思う。若い皆様の意見があるからこそ、ワクワクする相模原に変わっていくと思うので、ぜひこれからも思うことがあれば意見をいただきたいと思う。私はこれまでまちかど市長室で高校生や大学生と話すことはあったが、中学生と話すことはなかなかなかったので、今回こうして意見交換ができたことは非常に良い機会だったと思っている。これからの相模原の未来を託していきたいと思うので、ぜひ色々な声を聴かせていただきたい。</p> <p>5年半ほど市長を務めてきて、1番大事だと感じているのは、中学生のアンケート結果にも掲載されているが、市民の皆様の移動手段であると考えている。バスの減便や廃止路線などもあり、非常に厳しい状況下である。そんな中でどのようにして市民の皆様に寄り添った移動手段が確保できるか、相模湖地区で初めての試みができないか、担当課と議論を深めているところである。</p> <p>2つ目に市民の皆様から多く声をいただくのは、市民の皆様に対してプッシュ型で情報を伝えることである。自ら情報を取りに行くことができる人はいいが、そうでない人に対してどのように伝達するかが重要であると考え、携帯会社4キャリアと連携協定を締結し、中山間地域におけるスマホ教室などの展開を行ってきた。また、先ほどお話しさせていただいたとおり、令和元年東日本台風の際には佐野川地域では放送が聞き取りづらかったとの声があったことなどから、防災無線のスピーカーの更新についても、危機管理局と連携して、音の性能が良い最新型のものに更新できるように準備を進めている。さらに、広報さがみはらを、紙媒体だけでなくスマートフォンやタブレットにプッシュ型で情報発信し、引き続き紙媒体で必要な人には郵送などで届けていきたいと考えている。このほか、ラジオが情報伝達の手段として非常に強力であると考えている。能登半島地震の際はラジオを通じて情報を得たという話を視察などの際に多く耳にした。相模原市ではFM83.9のFMさがみがあるので、こうした手段を活用していただくことも大事ではないかと考えている。</p> <p>今日いただいたご意見は非常に貴重なものだと思っている。誰一人取り残さない市政を進めていきたいと思っているので、今後も地域の皆様と顔の見える関係を築きながら、色々な対応を行い、勉強させてもらいたいと考えている。この場へ出た意見を今後形にできるよう努力してまいりたい。 (本村市長)</p>
---------------------	---

※中学生の部において、懇談会当日に以下の通りテーマに関連する質問があったが、後日質問者から質問趣旨の訂正があった。

※訂正後の質問に対する回答は、後日担当課から質問者に回答した。

○懇談会当日の発言（結果報告P. 3に掲載）

「 緊急時には学校や幼稚園などのガラスを割ってAEDを使っても良い、という話を耳にしたことがあるが、それでは安全面での問題がある。割れたガラスで怪我をする可能性もあり、何より冷静に対応できる状況ではない。

AEDは、大人だけでなく子どもの命を救うためにも、地域全体でAEDの設置場所や使いやすさについて、改めて考え直す必要があると思う。（内郷中学校1年生）」

「 非常に大切な意見をいただいた。持ち帰って教育局に共有したいと思う。確かに、緊急時の場面であっても、ガラスを割って入らなければAEDが取れないとなると躊躇してしまう。また、使用方法については日頃から救助活動の訓練を積み重ねていくべきだと思う。特に心臓マッサージなど異性の体に触れるようなことは避けたいと思う人は多いと思うので、そんな時にAEDがすぐに使えるように、日頃からの訓練が大切だと思っている。私も訓練に参加するが、何度も積み重ねていかないと駄目だと思う部分が多い。実際に何かあった時に衝撃を受けることが多いので、今からしっかりと練習しておくことが重要だと思う。心臓マッサージもそうだが、AEDの設置場所についてもしっかりと検討すべきと思う。これについては関係部署に話をして検討を進めていきたいと思う。（本村市長）」

○質問趣旨の訂正内容

「 AEDで、大人だけでなく子どもの命を救うためにも、地域全体のAEDの設置場所や使用方法の周知について、改めて考え直す必要があると思う。

以前、小児用AEDについて、保育園にしかないと認識していて、緊急時には保育園などのガラスを割って小児用AEDを使っても良い、という話を耳にしたことがある。

しかし、小学校・中学校の校舎の外に設置されているAEDもモードを切り替えれば小児用として使用することができる。内郷保育園は内郷小学校のすぐ近くなのでガラスを割るような危ないことをする必要もないと思う。

こうした情報が地域に伝わっていないため、AEDの使用方法や設置箇所について正しい情報の周知を改めて行っていく必要があると思う。」

○回答（担当課：相模湖まちづくりセンター）

「 市立小・中学校のAEDが屋外に移設されたことの周知については、過去に広報さがみはら等にて周知していたが、十分に認識されていない実態を踏まえ、相模湖地区では、毎年10月頃に実施している相模湖地区総合防災訓練におけるAED使用方法の訓練に併せ、AEDの設置箇所の周知、小児用への切り替え方法の説明を追加する。

また、毎年相模湖地区自主防災隊から全戸配布している防災カレンダーについても、AEDの設置箇所等の周知について検討していく。」